

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	陸前高田地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
陸前高田市	32107	1	平成20年度～平成24年度	平成20年度
活性化計画の区域				
陸前高田地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
地域産物の販売量の増加	20%	29%	145%	

(コメント)
 事業活用活性化計画の目標を当市の素材生産量の20%増加とし、生産量の把握は岩手県の木材需給動態調査によることとしていたが、岩手県の木材需給動態調査の結果が平成21年次以降公表されていないことから、陸前高田市内において、素材生産の大半を担っている陸前高田市森林組合が陸前高田市内で生産した一般用材の生産量を指標値として用いて評価を行った。(一般用材にはスギ以外の樹種も含まれるが、陸前高田市内で生産される一般用材のほとんどがスギであるため、本指標値が最も当初指標値に近い性格のものである。)
 その結果、目標値20%に対し、実績値29%となり、事業活用活性化目標は達成された。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農林水産物 処理加工施設	製材施設整備 作業等1棟、モルダー2台		気仙木材加工 協同組合連合会
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
気仙木材加工 協同組合連合会	平成20年度	平成20年度	平成21年3月25日
事業の効果			
本事業実施により、製材製品の高品質化が図られ、「気仙スギ」ブランド製品の評価が向上し、取引量が増加した。 このことに伴い、原料となる市内の素材生産量増大の効果が表れた。			

3 総合評価

(コメント)

計画期間当初は、事業の効果により素材生産量は計画通り増加が図られた。東日本大震災の影響により平成23年に生産量の落ち込みが見られたが、その後、素材生産体制の再構築が図られ、平成24年については震災以前の水準に回復し、結果として目標が達成された。今後も震災前の水準を維持するものと予想される。

4 第三者の意見

(コメント)

素材生産量は事業前に比べ明らかに増加しており、効果が表れていると判断される。また、今後も同様の効果が維持されるものと期待される。

東北森林管理局 三陸中部森林管理署 森林技術指導官 工藤圭一 氏

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。